

# 第3章 まちの将来像とまちづくりの基本方針

## 1. まちの将来像

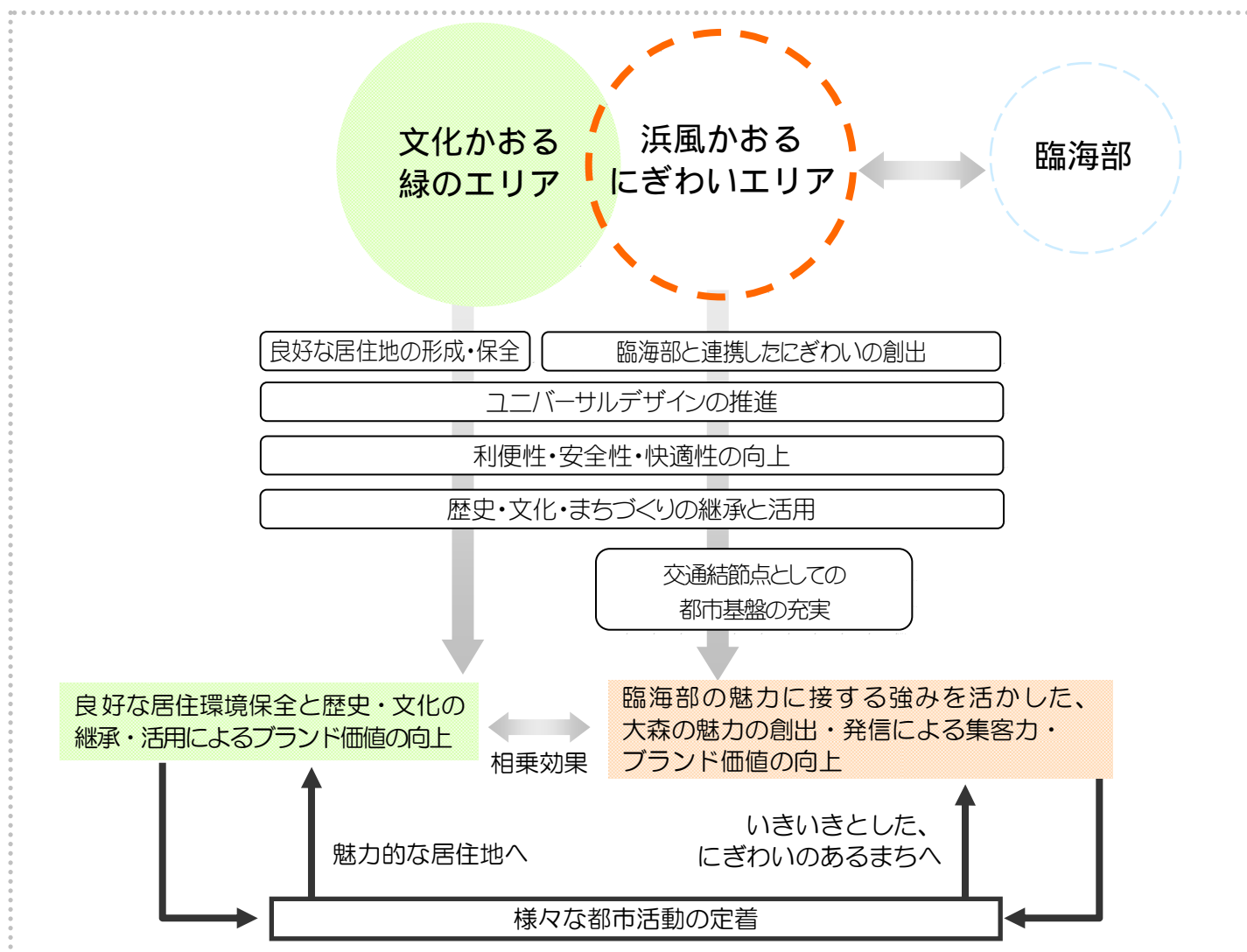
前章で整理した大森駅周辺地区の現況や特徴（強み・弱み）のまとめと課題の整理、大田区都市計画マスタープラン等に示されるまちづくりの方針等を踏まえ、大森駅周辺地区の地域ブランドの価値向上と活性化の循環を検討します。

まちの魅力が増すことで地域ブランド価値が向上し、人が集まり交流・滞在し、あるいは居住者が増えることで、商業・文化・生活などの様々な都市活動が定着し、都市の魅力が向上する循環づくりを目指します。

浜風かおるにぎわいエリアにおける「臨海部の魅力に接する強みを活かした、大森の魅力の創出・発信による集客力・ブランド価値の向上」と文化かおる緑のエリアにおける「良好な居住環境保全と歴史・文化の継承・活用によるブランド価値の向上」との相乗効果により、大森駅周辺地区の活性化と魅力の向上につなげていきます。

このような取組みにより、浜風かおるにぎわいエリアは「いきいきとした、にぎわいのあるまち」に、文化かおる緑のエリアは「魅力的な居住地」になることを目指します。

<課題解決に向けた「ブランド価値向上と活性化の循環」>

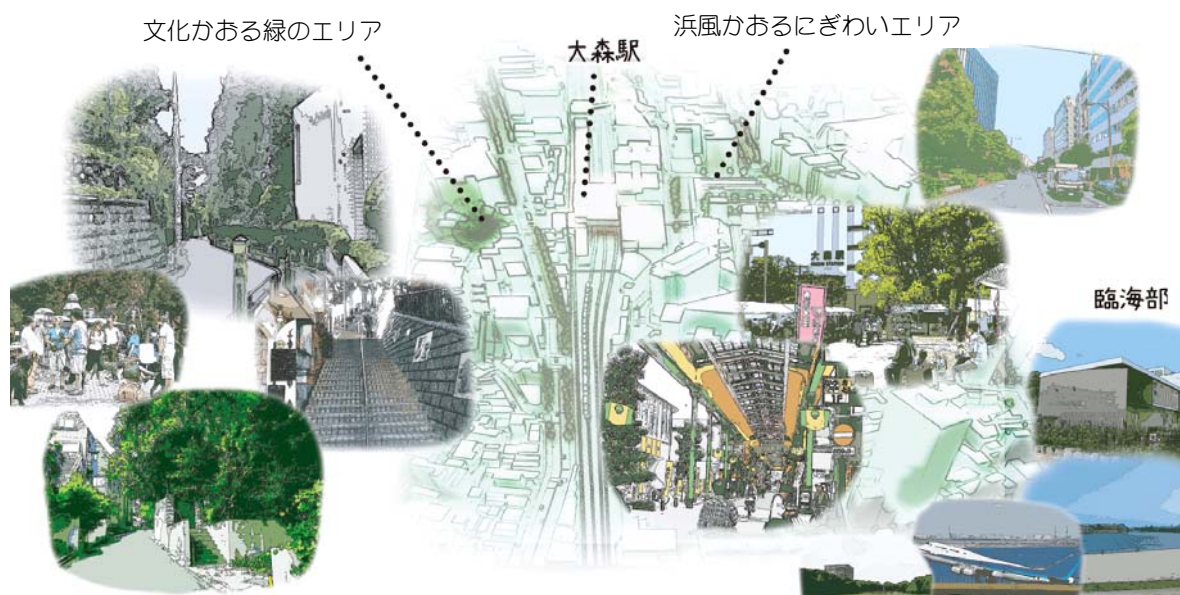


## <まちの将来像>

大森駅周辺の現状や課題、大田区都市計画マスタープラン等における位置付け、大森のブランド価値の向上などから、目指すべきまちの将来像を以下のように設定しました。

# 歴史と文化と浜風がおる いきいきとした心地よい「大森」

## <イメージカラーージュ>



### 大森駅周辺の将来の姿

大森駅の東西に、それぞれ個性のある魅力あるまちが広がっています。東側は、国際化した羽田空港や臨海部との往来が盛んで、世界につながる空や海の雰囲気を感じられます。そして、上質なサービスや商品を提供する商店街には多くの人々が集い、周辺は利便性の極めて高い居住地・業務地としても人気を集めています。

一方西側は、落ち着いた美しい緑が印象的で、大森貝塚や馬込文士村などの歴史・文化が息づく品格あるまちなみを形成しています。また、そこに住む人々の健康や暮らしを身近な商店街が支え、安心できる地域コミュニティが育まれています。

このような個性的で魅力ある東西のまちが交流することで、多様な人々が集い、大森の新たな魅力を生み出しています。そして、地域住民、事業者、行政が協力し、いきいきとした心地よいまちを将来に継承していく活動が活発に行われ、大森に住んでみたい、大森で事業に取組みたいという新しい風を受け入れながら、大森は着実に発展を続けています。

## 2. まちづくりの基本方針

まちの将来像実現に向けた取組みを進めていく上で必要となる、まちづくりの基本方針を定めます。「歴史と文化と浜風かおる いきいきとした心地よい『大森』」というまちの将来像に基づき、エリアごとにまちづくりの基本方針を以下のように設定します。

### 「浜風かおるにぎわいエリア」のまちづくりの基本方針

#### 居住者・事業者・来訪者がいきいきとしたまちの形成

- まちなかと臨海部等とのアクセス性を高め、大森海苔や旧東海道の歴史・文化、臨海部の集客施設、大規模公園などを活かし、まちなかへの集客力を高めます。
- 活発な商業活動やイベントの開催、地域住民主体のまちづくりを進め、地域力を高めながらまちを盛り上げていきます。
- 交通利便性や安全性の高い都市基盤の強化を行い、大森駅周辺の魅力を底上げします。特に大森駅東口は、臨海部や羽田空港への交通の起点としての機能充実を図ります。
- 駅周辺の基盤整備等により駅の東西をつなぐことで、人々が行き交い、交流し、東西のまちの魅力が融合した新たな大森の魅力を生み出します。



### 「文化かおる緑のエリア」のまちづくりの基本方針

#### 歴史・文化を未来へつなぐ、魅力的な居住地の形成

- 大森貝塚や馬込文士村などの歴史・文化を継承・活用し、ブランド価値の向上を目指します。
- 身近な商店街の活性化や生活サービスの向上、起伏に富んだ地形を気軽に移動できる取組みなど生活利便性の向上を図ります。
- 地域住民が主体となって、緑の保全やまちづくりルールの策定に取組み、防災や防犯の意識が高く安心できるまちを目指し、住み続けたいと感じる魅力的な居住地を形成します。